『近世大阪の物価と利子』に見る釘の価格

Study on the price of nails seen in *"Kinsei Osaka no bukka to risi"*

平山　育男
HIRAYAMA Ikuo

キーワード：和釘、価格、物価
Keywords ：Japanese nail, price, commodity price

This article examined the items of "nails" described in *"Kinse Osaka no Bukka to Risi"* and revealed the following points.

In *"Kinse Osaka no Bukka to Risi"*, the price of Japanese nails *"Kugi dai 5 sun"* and "Kugi *namil 4 sun*" in 50 years from 1830 to 1879 is described, and these correspond to the prices of the multiple nails described in *"Kinsei-tingin-bukka-si-siryo"*. Therefore, it can be judged that the material of *"Kinse Osaka no Bukka to Risi"*is appropriate. The price of *"Kugi dai 5 sun"* and *"Kugi namil 4 sun"* described in *"Kinse Osaka no Bukka to Risi"* fluctuated differently from the rice price and price coefficient. These can be judged closely related to price fluctuations in the iron. The price of *"Kugi dai 5 sun"* and "Kugi *namil 4 sun*" had fallen from around 1874 without being linked to fluctuations in iron prices. This decline can be attributed to the fact that cheap Japanese nails have been put on the market because of the use of imported iron as the material for Japanese nails.

1　はじめに

宮本又次が責任編集にあたり、大阪大学近世物価史研究会がまとめた『近世大阪の物価と利子』は、近世末期から明治時代初期の大阪における、様々な物品の価格や利子の変遷をまとめたものである[参考1)]。特に同書の第２部「大阪物価沿革表」による天保～明治初期の物価[注1)]は、天保元（1830）年から明治12（1879）年の50年間を中心として大阪における各種物品の価格について、調査に基づいた資料を示したものを整理、再録したものである。原資料は明治13（1880）年に大阪商法会議所から商務局に報告され、48品目が調査対象とされたが、４品目は未調査で、３品目は１ヶ月遅れで報告がなされたという。

ところで、報告のあった物品の中には、釘についてのものを見ることができる。釘は

> 釘商今西佐兵衛所有ノ帳簿ニ就テ査出ス釘ハ地金ト異ナリ月々相場ニ高値アルモノニアラス或ハ２年或ハ34年間モ同価ナル事アリ故ニ今其変換セシ時ノ価ノミヲ記ス其品ハ即チ播州及ヒ備後ノ製ナリ[注2)]

とある。つまり、今西佐兵衛の商店における釘の価格の内、同書では"釘大５寸"と"釘並４寸"について、天保元（1830）年から明治12（1879）年における価格を示し、これは表記からいわゆる和釘についての価格の動向を示すものと考えることができる。

筆者はこれまでにも近世期から明治時代における和釘を中心とする価格について明らかとしており[注3)]、加えて明治時代における洋釘の価格についても、その動向を示している[注4)]。そこで、本稿においては、『近世大阪の物価と利子』に示された天保元（1830）年から明治12（1879）年における釘の価格変動について考察を加え、近世末期から明治時代初期における和釘の価格変動の意味を明らかにすることを目的とする。

２　『近世大阪の物価と利子』における釘の価格

『近世大阪の物価と利子』に示された天保元（1830）年から明治12（1879）年における和釘の価格を図１に示した。ここでは"釘大５寸"と"釘並４寸"の1,000本についての価格が、明治６（1873）年までは匁の単位、以後は円・銭の単位で示されている。

価格を概観すると"釘大５寸"は天保元（1830）年には15匁［n_5］であったものが、天保14（1843）年には30匁［2 n_5］、嘉永５（1852）年には47匁［3.1 n_5］、そして明治７（1874）年には1.35円［9 n_5］、と最高値を示すが５年後の明治12（1889）年には0.68［4.5 n_5］として明治７（1874）年に対しては半額となっている。

また、"釘並４寸"は、天保元（1830）年には6.5匁［n_4］であるが、天保９（1838）年には18匁［2.8 n_4］、明治７（1874）年には42銭［6.5 n_4］と最高値を記録するが、やはり５年後の明治12（1879）年には20銭［3.1 n_4］として明治７（1874）年に対して半額以下となる。

３　『近世大阪の物価と利子』における釘の価格と『近世賃金物価史史料』の関係

『近世賃金物価史史料』[参考2)]は、小柳津信郎が各地で発刊された市史及び資料集などを渉猟した元禄10（1697）年から文久２（1862）年に及ぶ130件についての和釘の価格を年代順に示す記事を列記したものである[注5)]。前稿では『近世賃金物価史史料』に記されたこの130件の和釘の価格について検討を加えた。その結果、２寸から６寸の各釘では、いずれも３種類の価格帯のあることを確認した[参考2)]。

そこで、『近世大阪の物価と利子』に示される"釘大５寸"及び"釘並４寸"の価格が、『近世賃金物価史史料』の示す価格に適合するものであるかを先ずは見ておきたい。

５寸の和釘について、天保元（1830）年から明治12（1879）年の期間における『近世賃金物価史史料』が示す資料についての価格は表1-1-1の16件となる。前稿では100本当たりの価格を銀［匁］、銭［文］について示したため、本稿では、これを『近世大阪の物価と利子』と同様に1,000本当たりとし、銀［匁］に対する価格を先ずは示した。そして、この16件の年代に対応する『近世大阪の物価と利子』における"釘大５寸"の価格を表1-1-2に併記した。その結果、16件中５件が『近世賃金物価史史料』［α］に対する『近世大阪の物価と利子』［β］の価格の割合［α / β］は± 30%の範囲にあることが分かる。

４寸の和釘についても同様に、『近世賃金物価史史料』に示される 11 件を表 1-2-1 に同様の条件で示し、この 11 件に対応する『近世大阪の物価と利子』における“釘並４寸”の価格を表 1-2-2 に併記した。その結果、11 件中２件が『近世賃金物価史史料』［α］に対する『近世大阪の物価と利子』［α］の価格の割合［α / β］が± 30％の範囲にあることを確認できた。

以上より、近世以前は和釘の呼称長には少なくとも３種類程度を確認できたが、『近世大阪の物価と利子』に示される“釘大５寸”及び“釘並４寸”の価格は、『近世賃金物価史史料』に示される１つに適合すると判断できることになる。

第44表　釘

（数量は，ともに 1,000 本に付，匁は銀）

年	釘大５寸	釘並４寸	年	釘大５寸	釘並４寸	年	釘大５寸	釘並４寸
	匁	匁		匁	匁		匁	匁
天保１年	15.0	6.5	4	39.0	19.0	元治１年	72.0	31.0
2	15.5	7.0	嘉永１年	39.0	19.0	慶応１年	65.0	30.0
3	16.5	7.5	2	40.0	19.0	2	55.0	25.0
4	18.0	8.5	3	40.0	19.0	3	55.0	25.0
5	18.0	8.5	4	43.0	21.0	明治１年	60.0	27.0
6	21.0	10.0	5	47.0	22.0	2	70.0	30.0
7	21.0	10.0	6	47.0	22.0	3	80.0	32.0
8	36.5	18.0	安政１年	47.0	22.0	4	95.0	33.0
9	36.5	18.0	2	47.0	22.0	5	110.0	35.0
10	28.5	13.5	3	50.0	24.0	6	110.0	35.0
11	28.5	13.5	4	50.0	24.0	7	円 1.35	銭 42
12	28.5	13.5	5	50.0	24.0	8	1.00	30
13	28.5	13.5	6	45.0	21.0	9	0.90	22
14	30.0	14.5	万延１年	45.0	21.0	10	0.70	19
弘化１年	33.0	17.0	文久１年	45.0	21.0	11	0.70	19
2	33.0	17.0	2	45.0	21.0	12	0.68	20
3	33.0	17.0	3	65.0	28.0			

図１－１　『近世賃金物価史史料』の数値を物価換算した２寸釘の価格

表１－１－１『近世賃金物価史史料』で天保元（1830）年から明治12（1879）年に示される４寸釘の価格

番号	元号	西暦	種類	本数		価格	100本当たり価格 銀[匁]	100本当たり価格 銭[文]	資料名
85	天保元	1830	5寸釘	29	本	120文	4.10	414	佐久間町史
90	天保8	1837	5寸釘	100	本	3匁5分	3.50	364	浜田町史
95	天保13	1842	5寸釘	1000本二付		3貫664文	3.42	366	小田原市史
102	天保13	1842	5寸釘	1000本二付		3664文之処値下3500文売	3.27	350	小田原市史
105	安政2	1855	中5寸釘	10	本	25文	2.66	250	本埜村史
106	安政2	1855	并5寸釘	10	本	18文	1.91	180	本埜村史
107	安政2	1855	大5寸釘	10	本	164文	17.45	1640	本埜村史
112	安政4	1857	大5寸釘	100	本	6匁5分	6.50	624	下田市史
113	安政4	1857	5寸釘	100	本	6匁	6.00	576	下田市史
118	安政4	1857	5寸釘	200	本	580文	3.02	290	寒川町史
121	安政5	1858	大5寸釘	200	本	2貫700文	14.06	1350	浦和市史
122	安政5	1858	並5寸釘	300	本	524文	1.82	175	浦和市史
123	安政5	1858	大5寸釘	1000	本	23匁	2.30	221	浦和市史
124	安政5	1858	中5寸釘	300	本	4匁2分	1.40	134	浦和市史
125	安政5	1858	5寸釘	10	本	20文	2.08	200	猿投神社近世史
127	文久2	1862	5寸釘	62	本	5分5厘	0.89	85	猿投神社近世史

凡例：100本当たり価格　欄内を塗りつぶしのものが記載の価格でそれに対応する価格を反対側に示した

表１－１－２『近世大阪の物価と利子』に示される４寸釘と価格の関係

『近世賃金物価史史料』1000本当たりの価格 銀[匁]: α	『近世大阪の物価と利子』で同年の価格[匁]: β	α / β
41	15	2.73
35	36.5	0.96
34.2	28.5	1.20
32.7	28.5	1.15
26.6	47	0.57
19.1	47	0.41
174.5	47	3.71
65	50	1.30
60	50	1.20
30.2	50	0.60
140.6	50	2.81
18.2	50	0.36
23	50	0.46
14	50	0.28
20.8	50	0.42
8.9	45	0.20

黄色：α / β が0.8～1,2の範囲にあるもの

表１－２－１『近世賃金物価史史料』で天保元（1830）年から明治12（1879）年に示される４寸釘の価格

番号	元号	西暦	種類	本数		価格	100本当たり価格 銀[匁]	100本当たり価格 銭[文]	資料名
88	天保3	1832	4寸釘	2	本	文銀6厘	3.00	315	新装明野町誌
89	天保6	1835	4寸釘	8	本	24文	2.83	300	更埴市史
91	天保8	1837	4寸釘	100	本	1匁6分	1.60	166	浜田町史
96	天保13	1842	4寸釘	1000本二付		2貫100文	1.96	210	小田原市史
101	天保13	1842	4寸釘	1000本二付		2100文之処値下2000文売	1.87	200	小田原市史
108	安政3	1856	4寸釘	20	本	80文	4.12	400	本埜村史
109	安政3	1856	4寸釘	500	本	19匁	3.80	369	下田市史
114	安政4	1857	4寸釘	100	本	3匁8分	3.80	365	下田市史
120	安政4	1857	4寸釘	10	本	32文	3.33	320	一宮市萩原町史
128	文久2	1862	4寸釘	50	本	8分	1.60	154	猿投神社近世史
129	文久2	1862	4寸釘	40	本	6分2厘	1.55	149	猿投神社近世史

凡例：100本当たり価格　欄内を塗りつぶしのものが記載の価格でそれに対応する価格を反対側に示した

表１－２－２『近世大阪の物価と利子』に示される４寸釘と価格の関係

『近世賃金物価史史料』1000本当たりの価格 銀[匁]: α	『近世大阪の物価と利子』で同年の価格[匁]: β	α / β
30	7.5	4.00
28.3	10	2.83
16	18	0.89
19.6	13.5	1.45
18.7	13.5	1.39
41.2	50	0.82
38	50	0.76
38	50	0.76
33.3	50	0.67
16	45	0.36
15.5	45	0.34

黄色：α / β が0.8～1,2の範囲にあるもの

表２-１　米価を考慮した釘の価格

番号	年号		釘大5寸			釘並4寸			米価	
	元号	西暦	a-1[匁]	a-1'[匁]	a-2	b-1[匁]	b-1'[匁]	b-2	c-1[両]	c-2
1	天保1	1830	15.00	15.00	1.00	6.50	6.50	1.00	1.29	1.00
2	天保2	1831	15.50	17.24	1.15	7.00	7.78	1.20	1.16	0.90
3	天保3	1832	16.50	19.35	1.29	7.50	8.80	1.35	1.10	0.85
4	天保4	1833	18.00	16.01	1.07	8.50	7.56	1.16	1.45	1.12
5	天保5	1834	18.00	14.33	0.96	8.50	6.77	1.04	1.62	1.26
6	天保6	1835	21.00	19.08	1.27	10.00	9.08	1.40	1.42	1.10
7	天保7	1836	21.00	13.55	0.90	10.00	6.45	0.99	2.00	1.55
8	天保8	1837	36.50	18.04	1.20	18.00	8.90	1.37	2.61	2.02
9	天保9	1838	36.50	21.90	1.46	18.00	10.80	1.66	2.15	1.67
10	天保10	1839	28.50	25.36	1.69	13.50	12.01	1.85	1.45	1.12
11	天保11	1840	28.50	32.25	2.15	13.50	15.28	2.35	1.14	0.88
12	天保12	1841	28.50	31.42	2.09	13.50	14.88	2.29	1.17	0.91
13	天保13	1842	28.50	30.14	2.01	13.50	14.27	2.20	1.22	0.95
14	天保14	1843	33.00	38.35	2.56	14.50	16.85	2.59	1.11	0.86
15	弘化1	1844	33.00	30.41	2.03	17.00	15.66	2.41	1.40	1.09
16	弘化2	1845	33.00	29.98	2.00	17.00	15.44	2.38	1.42	1.10
17	弘化3	1846	33.00	29.16	1.94	17.00	15.02	2.31	1.46	1.13
18	弘化4	1847	39.00	31.25	2.08	19.00	15.22	2.34	1.61	1.25
19	嘉永1	1848	39.00	40.57	2.70	19.00	19.77	3.04	1.24	0.96
20	嘉永2	1849	40.00	41.61	2.77	19.00	19.77	3.04	1.24	0.96
21	嘉永3	1850	40.00	39.09	2.61	19.00	18.57	2.86	1.32	1.02
22	嘉永4	1851	43.00	44.38	2.96	21.00	21.67	3.33	1.25	0.97
23	嘉永5	1852	47.00	38.37	2.56	22.00	17.96	2.76	1.58	1.22
24	嘉永6	1853	47.00	35.46	2.36	22.00	16.60	2.55	1.71	1.33
25	安政1	1854	47.00	27.81	1.85	22.00	13.02	2.00	2.18	1.69
26	安政2	1855	47.00	32.77	2.18	22.00	15.34	2.36	1.85	1.43
27	安政3	1856	50.00	30.57	2.04	24.00	14.67	2.26	2.11	1.64
28	安政4	1857	50.00	41.35	2.76	24.00	19.85	3.05	1.56	1.21
29	安政5	1858	50.00	34.13	2.28	24.00	16.38	2.52	1.89	1.47
30	安政6	1859	45.00	32.61	2.17	21.00	15.22	2.34	1.78	1.38
31	万延1	1860	45.00	41.17	2.74	21.00	19.21	2.96	1.41	1.09
32	文久1	1861	45.00	23.41	1.56	21.00	10.92	1.68	2.48	1.92
33	文久2	1862	45.00	28.32	1.89	28.00	17.62	2.71	2.05	1.59
34	文久3	1863	65.00	37.10	2.47	28.00	15.98	2.46	2.26	1.75
35	元治1	1864	72.00	41.46	2.76	31.00	17.85	2.75	2.24	1.74
36	慶応1	1865	65.00	22.30	1.49	30.00	10.29	1.58	3.76	2.91
37	慶応2	1866	55.00	11.19	0.75	25.00	5.09	0.78	6.34	4.91
38	慶応3	1867	55.00	10.69	0.71	25.00	4.86	0.75	6.64	5.15
39	明治1	1868	60.00	16.83	1.12	27.00	7.57	1.16	4.60	3.57
40	明治2	1869	70.00	10.84	0.72	30.00	4.65	0.71	8.33	6.46
41	明治3	1870	80.00	12.49	0.83	32.00	5.00	0.77	8.26	6.40
42	明治4	1871	95.00	20.49	1.37	33.00	7.12	1.10	5.98	4.64
43	明治5	1872	110.00	36.48	2.43	35.00	11.61	1.79	3.89	3.02
44	明治6	1873	110.00	31.96	2.13	35.00	10.17	1.56	4.44	3.44
45	明治7	1874	135.00	28.55	1.90	42.00	8.88	1.37	6.10	4.73
46	明治8	1875	100.00	18.80	1.25	30.00	5.64	0.87	6.86	5.32
47	明治9	1876	90.00	24.29	1.62	22.00	5.94	0.91	4.78	3.71
48	明治10	1877	70.00	18.24	1.22	19.00	4.95	0.76	4.95	3.84
49	明治11	1878	70.00	15.84	1.06	19.00	4.30	0.66	5.70	4.42
50	明治12	1879	68.00	10.48	0.70	20.00	3.08	0.47	8.37	6.49

表２-２　米価及び物価を考慮した釘の価格

番号	年号		釘大5寸			釘並4寸			米価及び物価		鉄		
	元号	西暦	A-1[匁]	A-1'[匁]	A-2	B-1[匁]	B-1'[匁]	B-2	d-1[両]	d-2	E-1[匁]	E-1'[匁]	E-2
1	天保1	1830	15.00	15.00	1.00	6.50	6.50	1.00	1.29	1.00	63.08	63.08	1.00
2	天保2	1831	15.50	17.23	1.15	7.00	7.78	1.20	1.16	0.90	64.45	71.66	1.14
3	天保3	1832	16.50	19.35	1.29	7.50	8.79	1.35	1.10	0.85	65.78	77.13	1.22
4	天保4	1833	18.00	16.01	1.07	8.50	7.56	1.16	1.45	1.12	76.60	68.14	1.08
5	天保5	1834	18.00	14.33	0.96	8.50	6.77	1.04	1.62	1.26	89.27	71.08	1.13
6	天保6	1835	21.00	19.08	1.27	10.00	9.08	1.40	1.42	1.10	79.36	72.09	1.14
7	天保7	1836	21.00	13.54	0.90	10.00	6.45	0.99	2.00	1.55	78.14	50.39	0.80
8	天保8	1837	36.50	18.04	1.20	18.00	8.90	1.37	2.61	2.02	80.23	39.65	0.63
9	天保9	1838	36.50	21.90	1.46	18.00	10.80	1.66	2.15	1.67	89.88	53.92	0.85
10	天保10	1839	28.50	25.35	1.69	13.50	12.01	1.85	1.45	1.12	83.52	74.29	1.18
11	天保11	1840	28.50	32.25	2.15	13.50	15.27	2.35	1.14	0.88	89.88	101.69	1.61
12	天保12	1841	28.50	31.42	2.09	13.50	14.88	2.29	1.17	0.91	117.20	129.20	2.05
13	天保13	1842	28.50	30.13	2.01	13.50	14.27	2.20	1.22	0.95	135.50	143.26	2.27
14	天保14	1843	33.00	38.35	2.56	14.50	16.85	2.59	1.11	0.86	146.90	170.70	2.71
15	弘化1	1844	33.00	30.40	2.03	17.00	15.66	2.41	1.40	1.09	152.50	140.50	2.23
16	弘化2	1845	33.00	29.98	2.00	17.00	15.44	2.38	1.42	1.10	150.00	136.25	2.16
17	弘化3	1846	33.00	29.15	1.94	17.00	15.02	2.31	1.46	1.13	159.10	140.56	2.23
18	弘化4	1847	39.00	31.24	2.08	19.00	15.22	2.34	1.61	1.25	157.30	126.02	2.00
19	嘉永1	1848	39.00	40.57	2.70	19.00	19.76	3.04	1.24	0.96	152.80	158.94	2.52
20	嘉永2	1849	40.00	41.61	2.77	19.00	19.76	3.04	1.24	0.96	146.00	151.87	2.41
21	嘉永3	1850	40.00	39.09	2.61	19.00	18.57	2.86	1.32	1.02	144.20	140.91	2.23
22	嘉永4	1851	43.00	44.37	2.96	21.00	21.67	3.33	1.25	0.97	139.90	144.36	2.29
23	嘉永5	1852	47.00	38.37	2.56	22.00	17.96	2.76	1.58	1.22	134.00	109.39	1.73
24	嘉永6	1853	47.00	35.45	2.36	22.00	16.59	2.55	1.71	1.33	124.60	93.98	1.49
25	安政1	1854	47.00	27.81	1.85	22.00	13.02	2.00	2.18	1.69	121.80	72.07	1.14
26	安政2	1855	47.00	32.77	2.18	22.00	15.34	2.36	1.85	1.43	117.70	82.06	1.30
27	安政3	1856	50.00	30.56	2.04	24.00	14.67	2.26	2.11	1.64	124.30	75.98	1.20
28	安政4	1857	50.00	41.34	2.76	24.00	19.84	3.05	1.56	1.21	135.50	112.03	1.78
29	安政5	1858	50.00	34.12	2.27	24.00	16.38	2.52	1.89	1.47	145.70	99.43	1.58
30	安政6	1859	45.00	32.61	2.17	21.00	15.22	2.34	1.78	1.38	153.30	111.09	1.76
31	万延1	1860	45.00	41.17	2.74	21.00	19.21	2.96	1.41	1.09	163.60	149.66	2.37
32	文久1	1861	45.00	23.40	1.56	21.00	10.92	1.68	2.48	1.92	172.50	89.72	1.42
33	文久2	1862	45.00	28.31	1.89	28.00	17.62	2.71	2.05	1.59	264.60	166.48	2.64
34	文久3	1863	65.00	37.10	2.47	28.00	15.98	2.46	2.26	1.75	450.80	257.28	4.08
35	元治1	1864	72.00	41.46	2.76	31.00	17.85	2.75	2.24	1.74	511.70	294.65	4.67
36	慶応1	1865	65.00	22.30	1.49	30.00	10.29	1.58	3.76	2.92	745.80	255.84	4.06
37	慶応2	1866	55.00	11.19	0.75	25.00	5.09	0.78	6.34	4.92	687.50	139.87	2.22
38	慶応3	1867	55.00	10.68	0.71	25.00	4.86	0.75	6.64	5.15	525.90	102.16	1.62
39	明治1	1868	60.00	16.82	1.12	27.00	7.57	1.16	100	3.57	419.30	117.57	1.86
40	明治2	1869	70.00	16.07	1.07	30.00	6.89	1.06	122	4.36	568.40	130.46	2.07
41	明治3	1870	80.00	17.69	1.18	32.00	7.08	1.09	127	4.52	516.20	114.15	1.81
42	明治4	1871	95.00	21.18	1.41	33.00	7.36	1.13	126	4.49	485.70	108.28	1.72
43	明治5	1872	110.00	22.33	1.49	35.00	7.10	1.09	138	4.93	659.80	133.92	2.12
44	明治6	1873	110.00	22.16	1.48	35.00	7.05	1.08	139	4.96	987.60	198.97	3.15
45	明治7	1874	135.00	26.13	1.74	42.00	8.13	1.25	143	5.17	1018.00	197.07	3.12
46	明治8	1875	100.00	18.82	1.25	30.00	5.65	0.87	146	5.31	882.00	166.02	2.63
47	明治9	1876	90.00	17.74	1.18	22.00	4.34	0.67	152	5.07	629.00	123.97	1.97
48	明治10	1877	70.00	13.22	0.88	19.00	3.59	0.55	137	5.29	532.00	100.48	1.59
49	明治11	1878	70.00	12.61	0.84	19.00	3.42	0.53	141	5.55	624.00	112.40	1.78
50	明治12	1879	68.00	11.14	0.74	20.00	3.28	0.50	145	6.10	654.00	107.16	1.70

表３　米価及び物価を考慮した釘の価格

注：釘の単位は明治７（1874）年以後[円]、鉄は明治８（1875）年以後[円]　となる。

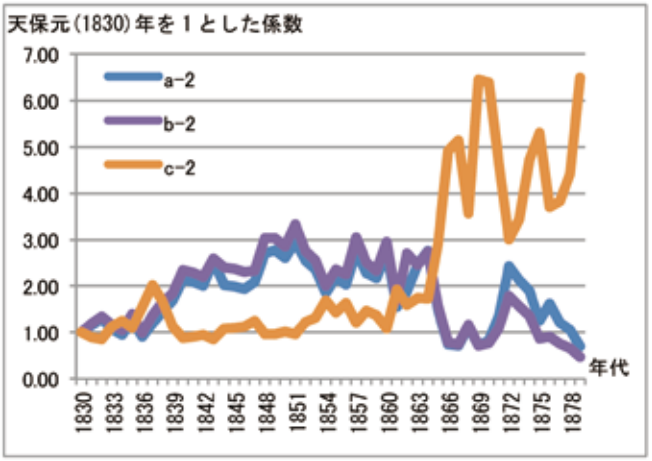

図２-１　米価と釘の価格の変遷

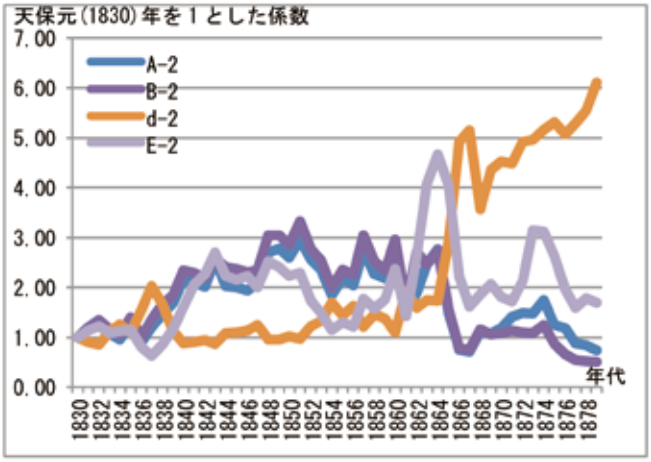

図２-２　米価及び物価と釘と鉄の価格の変遷

４　米価や物価指数を考慮した『近世大阪の物価と利子』における和釘の価格

４－１　米価を考慮した和釘の価格

『近世大阪の物価と利子』に示される価格は、物価の変動を考慮したものではない。そのため、年代の異なる価格の比較を行う場合、物価の変動を考慮する必要がある。

この時代、物価の変化は米価を用いるのが一般的である。そのため、表２－１ではａ－１列に『近世大阪の物価と利子』に記される“釘大５寸”、ｃ－１列に米価注）を掲げｃ－２列に天保元（1830）年を1.00とした米価の係数を示した。そして、天保元（1830）年米価に基づく、“釘大５寸”の価格をａ－１’列、更に天保元（1830）年の米価を反映させた“釘大５寸”の価格を1.00とした係数をａ－２列に示した。以下同様に、“釘並４寸”についてもｂ－１列に『近世大阪の物価と利子』に記される“釘並４寸”の価格を示し、天保元（1830）年米価に基づく、“釘並４寸”の価格をｂ－１’列、更に天保元（1830）年の米価を反映させた“釘並４寸”の価格を1.00とした係数をｂ－２列に示した。

これによると、“釘大５寸”の米価を考慮した価格は、天保元（1830）年を1.00とすると嘉永４（1851）年に2.96と最大値を示すが、以下漸減し、慶応３（1867）年に0.71と底となるが再び明治５（1872）年に2.43とする値を付けた後、明治12（1879）年にはその１／３以下である0.70となった。

同様に、“釘並４寸”についても見ると、天保元（1830）年の“釘並４寸”の価格を1.00とすると、嘉永４（1851）年に最大の3.33となり、明治２（1869）年に0.71まで下がり、再び明治５（1872）年に1.79を記録するが、明治12（1879）年にはやはり１／３以下の0.47となっている。

つまり、“釘大５寸”“釘並４寸”とも、明治時代初期には短期間に米価を考慮した価格が１／３程度に下落したことになる。

なお、これを図化したものが図２－１となる。これによると“釘大５寸”と“釘並４寸”の価格は良く相関して連動していることが分かるが、米価の動きとはほぼ無関係と言える。

４－２　米価及び物価を考慮した釘の価格

ところで米価は、米の作況により大きく価格が変動する。実際、明治３～６（1870、73）年は豊作で、米価の動きが大きい[注7)]。この点を考慮して、明治元（1868）年以降は、物価指数注[8)]を用い、和釘の価格を補整したものが表２－２及び図２－２である。

表２－２では、明治元（1868）年における物価係数を100として、それ以後のものをｄ－１欄に示し、米価における係数を物価係数に置き換えたものをｄ－２欄に記した。そして、ｄ－２欄の数値に基づき、“釘大５寸”、“釘並４寸”について米価及び物価に基づいた値をＡ－１’、Ｂ－１’に示し、それぞれ天保元（1830）年の価格を1.00とした係数をＡ－２欄、Ｂ－２欄に示した。

図２－２がその図化である。図２－１と異なるのは明治元（1868）年以後の動きとなるのでこの点を見ておきたい。まず、物価の動きは米価に比較すると穏やかである。“釘大５寸”は、明治７（1874）年が最も高く1.76であるが以後急落し、明治12（1879）年には約半値の0.88となる。“釘並４寸”も明治７（1874）年が最も高く1.27であるが明治12（1879）年には半値以下の0.60となる。

つまり、和釘の価格の変動を、物価係数の変動と比較すると、米価に対する変動に比べ動きは穏やかではあるものの、明治時代初期において、和釘の価格は短期間で半値程度にまで下落したとすることができる。

５　近世末期における和釘の価格変動の要因

５－１　米価及び物価と和釘の価格の関係

和釘の価格の変動については既に見た通りであるが、和釘の価格は米価及び物価とは必ずしも連動はしていない、ということは明らかである。

それでは、和釘の価格は何に関連して動いたものであるのか、以下ではその検討を行いたい。

５－２　和鉄の価格と釘の価格の関係

先ず、和釘の価格の変動要因として第一に考えられるのは、原料となる鉄、即ち和鉄の価格である。

『近世大阪の物価と利子』においては鉄の価格も掲載される[注9)]。これは同書の解題に

> 鉄商名越愛助ノ原査ニ係ル大坂輸入ノ和鉄ハ古来ヨリ山陰山陽ノ各国ヨリ来ルモノ多シ又文化文政ノ頃ヨリ奥州ヨリ硬質ノ岩鉄ヲ輸入ス此表中ニ挙クル所ハ芸州産ナレドモ余皆価格之ニ倣フヲ以テ別ニ表出セス[注10)]

とあるように、和鉄の価格で、産地は芸州を中心とするものとされる。なお、『近世大阪の物価と利子』における和鉄の価格表示は月単位であるため、これを年平均として示したものが表３のＥ－１欄である。そして、比較のため天保元（1830）年米価及び物価により換算した価格をＥ－１’欄に示し、更に天保元（1830）年の価格を1.00とした係数をＥ－２欄に示した。そしてこれを表２－２における“釘大５寸”の係数Ａ－２、“釘並４寸”の係数Ｂ－２、米価と物価の係数ｄ－２とともに示したものが図２－２となる。

図から言えることは和釘との価格係数は、米価及び物価の係数より和鉄の価格係数の変遷に類似する、ということである。

和釘と和鉄の価格係数では嘉永６（1853）年頃まではよく類似するものの、以後は和鉄の価格係数における振れ幅が大きい。この点は、既に引用したように地金は相場において月々においても動くことがあり、投機的な要因も働いたものとみることができる。

そして、元治元（1864）年に和鉄の価格係数は4.67、翌年の慶応元（1865）年に和鉄の価格係数は4.06となり、慶応２（1866）年以後急落するのであるが、この動向は和釘の価格係数に類似する。但し、明治年間になると、和鉄の価格係数は2.00～3.00前後の値となっているにもかかわらず、和釘の価格係数は1.00以下となり、和鉄の物価係数が5.00前後で高止まりする傾向とも異なるものとなっている。

５－３　和鉄と価格変動の要因

慶応２（1866）年以後における和鉄の価格の急落は、物価の動向とは全く正反対のものとなっている。この点について検討を加えることで、これに連動する釘の価格の変動要因の背景を探ることとしたい。

この時期において、和鉄の価格が急落した原因として挙

げられるのは、開国に伴う洋鉄の輸入である。安政６（1859）年の開国直後となる文久（1861 ～ 63）年間における輸入品の中には、既に鉄材、即ち洋鉄が含まれていたという[注11)]。そして、明治 12（1879）年頃において、和鉄は国内における 1.4 万トンの生産量に対して、実にその倍に当たる３万トンとなる洋鉄が輸入されるに至ったという[注12)]。つまり、幕末期における和鉄の価格の下落は、安価であった洋鉄の大量輸入が要因となるものであったと言える。

なお、江戸時代末から明治時代初期における国内における和鉄の生産については、国内の有力産地であった出雲における記録が残る。これらの報告によると、特に明治７（1874）年以後における生産量の減少が著しく、その理由として、安価で大量の洋鉄輸入が原因とされている[注13)]。つまり、和鉄は輸入された安価な洋鉄と、国内においては価格競争を行わなければならず、その結果、和鉄は価格を落としたのである。

５-４　釘の価格変動の要因

そこで考えられるのが和釘の原料として、安価で大量に国内へ流入した洋鉄が用いられ始め、これが市場に出回った結果とすべきであろう。

６　明治時代初期における和釘価格の下落

つまり、幕末期の開港に伴って安価な洋鉄が国内で出回ったため、和鉄は価格の下降を生じ、その結果、和鉄を原料とした和釘も価格の下降を来したわけで、それが元治元（1864）年から慶応３（1867）年頃における和鉄と和釘の価格動向の類似と言える。ところで、明治時代以後において和釘は和鉄に比べて一段の価格下降を来した。この点については、他の要因を挙げるべきであろう。

安価で大量に輸入された洋鉄は、原料として和釘の生産地にも提供されたわけで、それが反映されているのが明治年間以後における和釘価格における一層の価格下落や、明治８（1875）年以後における和釘における価格係数の下落と見ることができる。

“釘並４寸”で見れば、明治時代初期以後、安定して 1.00 前後の数値を示していたものが、明治 12（1879）年には６割の値にまで下落したことは、物価、和鉄の価格変動だけでは説明ができない。

ところで、この時代における和釘では輸入された洋鉄が原料として実際に用いられていた。福本都治によれば、

> （和釘の製造に際し：著者注）明治期になると輸入された細線状の角断面を持つ鉄材、すなわち「線香鉄」が代用され、大正期まで製造された。
>
> ただし、江戸時代と明治期では明らかな相違がある。前者は、その肌に巻頭釘と同様に鍛鉄特有の層がみられ、腐朽のしかたは層状の剥離となって現れ、断面は胴部から先端にかけて徐々に細くなっている。後者は、現在の市販の釘と同様に層は見られず錆は梨肌状にあらわれ、胴部の大きさは変化をつけず先端だけを尖らす。
>
> 明治期でも初期は、江戸時代から続く巻頭釘・切頭釘のほかは、もっぱら輸入の線香鉄を利用した切頭釘が製造された。[注14)]

とある。つまり、和釘は明治時代初期以後においては、輸入された鉄材－線香鉄を用いた和釘の製造が行われていたことになる。その結果、この線香鉄を原料とする角釘も和釘（厳密には洋鉄角釘）と見なされて市場へ大量に出回り、その結果として和釘は価格の下落を来したとすることができる。

７　さいごに

本稿は、『近世大阪の物価と利子』に記載される“釘”、即ち和釘の項目を検討したが、明らかになるのは以下の諸点である。

１）『近世大阪の物価と利子』には天保元（1830）年から明治 12（1879）年の 50 年に及ぶ和釘の“釘大５寸”“釘並４寸”の価格が記載されるが、これらは『近世賃金物価史史料』の記載される複数の和釘の価格に対応することから、妥当な資料と判断できる。

２）『近世大阪の物価と利子』に記載される“釘大５寸”“釘並４寸”の価格は、米価及び物価係数とは異なる変動を見ることができる。

３）『近世大阪の物価と利子』に記載される“釘大５寸”“釘並４寸”の江戸時代末期における価格は、原料となる和鉄の価格変動と密接な関係を持つと見ることができる。

４）『近世大阪の物価と利子』に記載される“釘大５寸”“釘並４寸”の価格は、明治時代初期においては、和鉄の価格変動とは連動せず、一層の下落をみる。

５）明治時代初期における和釘価格の下落は、材料に輸入材である線香鉄、即ち洋鉄が用いられることにより、安価な和釘（洋鉄角釘）が出回ったためと判断できる。

補記

かつて、明治８（1875）年における開智学校の建築資料である見積書などにおける釘の価格について検討を加えたことがある。明治８（1875）年における開智学校の見積書においては洋釘の記載がなく、和釘のみであった。なお、この考察では“本四寸”とする和釘の価格について検討を加え、これは明治８（1875）年において 100 本で 0.3 円であったとした[参考3)]。

更に筆者はこの論文で得ることのできた明治８（1875）年において、和釘“本四寸”が 100 本で 0.3 円とする和釘の価格に基づき、明治時代を通して洋釘の価格がどのように変動したのかについて考察を試みた。その結果、明治時代末において、同じ長さの洋釘は明治８（1875）年の和釘の価格に対して 1/50 程にまで下落したことを示している[注15)]。

ところで、今回の考察に基づけば、一連の研究において規準とした明治８（1875）年における和釘の価格は、明治時代初期においては比較的高い水準にあった時期と考えることができることが判明した。しかし、これ以後の時期で和釘の価格が下落することを考慮すると、明治８（1875）年頃を契機として、上述した輸入した原料である線香鉄－洋鉄が和釘の製造現場へ大量に流入したとすることができるのである。

しかし、この高価格を最後に記録した明治８（1875）年とは、和鉄の生産推移も考慮すると、和鉄により和釘を製造した最後の時期と言えるわけである。このように考えると、明治８（1875）年における和釘の価格を以後の洋釘との比較に用いたことは、あながち的外れであったとは言え

ない。つまり、明治８（1875）年における和釘の価格とは、在来の和鉄により製造された和釘、つまり和鉄角釘の価格を示す最末期のものと位置づけることができるのである。

参考文献

参考１）宮本又次、大阪大学近世物価史研究会：近世大阪の物価と利子、昭和 38（1963）．８

参考２）小柳津信郎：近世賃金物価史史料、成工社出版部、平成 10（1998）．１

参考３）平山：開智学校の建築資料に見る釘の使用と値段、長岡造形大学研究紀要 15、65 ～ 70 頁、平成 30（2017）．３

参考４）平山：『近世賃金物価史史料』に見る釘の価格、長岡造形大学研究紀要 16、55 ～ 59 頁、平成 31（2018）．３

参考５）安田善次郎：釘、博文館、大正５（1916）.12

注釈

注１）参考文献１）106 頁

注２）参考文献１）111 頁

注３）参考文献３）、４）

注４）平山：価格から見た和釘から洋釘への転換、日本建築学会論文集 757、653 ～ 659 頁、平成 31（2019）．３
平山：『中外物価新報』などの商況にみる明治 10（1877）年代から明治 20（1887）年代半ばにおける洋釘の価格、日本建築学会論文集 764、2195 ～ 2201 頁、令和元（2019）.10

注５）参考文献２）408 ～ 411 頁

注６）財団法人金融研究会：我国商品相場統計表、13 ～ 16 頁、昭和 12（1937）.11

注７）財団法人金融研究会：我国商品相場統計表、16 頁、前掲

注８）日本銀行百年史編纂委員会：日本銀行百年史　資料編、434 頁、昭和 61（1986）．９

注９）参考文献１）289 ～ 293 頁

注10）参考文献１）110 頁

注11）福沢諭吉：唐人往来、慶応元（1865）．閏５。文章は、福沢諭吉著作編纂会：福沢諭吉全集１、19 頁、昭和 26（1951）．５、によった。

注12）新井宏：金属を通して歴史を観る（2）金属生産量の歴史（1）鉄、バウンダリー 15-1、42 頁、平成 11（1999）．１

注13）鳥谷智文：明治初期の鉄山経営と輸入鉄増加および諸品価格騰貴の影響、季刊考古学 109、77 ～ 80 頁、平成 21（2009）.11

注14）福本都治：和釘から洋釘へ－製釘技術の転換－、５～６頁、住と建築 497、平成２（1990）．１

注15）平山：価格から見た和釘から洋釘への転換、日本建築学会論文集 757、653 ～ 659 頁、前掲